週刊「考歴民（これみ）」NO33

2021.11.8　　交野古文化同好会

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民と名付けました。

地名：寺（てら）

寺は倉治と同じく村の位置を変えている。
最初の寺の集落は交野高校の北側、今池の南、田んぼの中にであった。
小字名は「いまい」と言っている。
それは弥生時代、稲作を中心とした集落で、村の名を「てるは」と呼んでいた。
しかし、古墳時代になると大陸から新しい文化が入り、また、渡来人もやってきた。
彼らは進んだ文化、技術を持っており、大和、山背、河内のあちらこちらに居を構えた。
交野の地にもやってきた。
津田山（つだ）・交野山（倉治）・竜王山（寺）の三ヶ所に別れて住んだが、彼らは製糸や機織の技術に優れたものを持っていた。
寺の背後にそびえる竜王山の麓、現在の寺の集落の地に住んで機織を専業とした。この村の名を「はたやま村」と呼んだ。

現在の寺村

進んだ技術をもって生産した製糸は、当時の日本において高級品であった。
それゆえ、この村の支配者（豪族）は相当の力を持ったであろう。
寺の周囲に点在する多数の横穴式古墳が存在することでも、そのことがうかがわれる。

塚穴古墳（市内唯一現存）

この繁栄も長くは続かなかったらしい。
竜王山一帯は風化した花崗岩地帯である。一度、大雨、集中豪雨でもあれば、多くの土砂を下に流す。それによって崖崩れ、川の氾濫、土石流等によって、麓の「はたやま村」も寂れ、また、下の「いまい」にいた「てるは」の人々は山麓の尾根筋を中心とした場所に移り住み、農耕は北川、南川に挟まれた低地へ出向いていった。
元の「はたやま村」ではなく、農耕を主にした「てるは村」になった。
その「てるは」が時代が下がるにつれ、いつのまにか「てら」となってしまったということである。

今　井（いまい）

寺より流れる南川を挟んで、府立交野高校の北側の水田地帯を「今井」と呼んでいる。「今井」は新しい水路、あるいは堰（せき）のことで、開墾地に水を導く場合の用水路のことである。そこから発展して新しく生まれた村落をも指す言葉でもある。
寺の今井は、今池という灌漑用のため池が造られ、この水を引いて水田にした。

今池からの用水路を「いまい川」と言い、今井まで来て北に折れ、玉泉池（ぎょくせんいけ）へ流れている。
今井が古い集落であるというのは、今井の隣の小字名が「古宮ノ上」という。また、今井の中に「古宮」がある。
「古宮」というのは「てるは村」の神社であった。
寺の西南の出外れに「巽山（たつみやま）」という小さな丘があった。（今は、泉ヶ丘住宅となっている）
今井から見ると、ちょうど巽の方角（東南）になる。
このようなことを考え合わせてみると、寺の古い集落「てるは村」は今井にあったのではないかと推察される。
しかし、竜王山付近の花崗岩の風化が激しいため、大雨等の土石流により今井は大被害を受け、比較的被害の少ない尾根筋の小高い場所に移り住んだのである。そして、今井の集落は消えたが、地名だけが残り、かつ、今池から水を引いて水田化され、寺でも有数の美田に変わったのであろう。

南　野（みなみの）

府立交野高校の敷地と油田の南、ＪＲ学研都市線の東の地である。
「南野」は南川の西に開けた水田地帯である。南川が天井川であるため南野には北の今井と同じように氾濫が繰り返された土地である。
府立交野高校が建設された昭和４８年、敷地にあたる部分から４基の古墳が出土した。発掘された古墳のうち大きなものは前方後円墳（１辺約２８ｍ、円墳の直径約２２ｍ）という珍しい古墳であった。今も南川の堤防側、ＪＲ学研都市線踏切近くに二つの古墳（東車塚・西車塚）がある。柿畑で残されている。
時代は５世紀中葉から６世紀中葉までと推定され、校地の下に埋もれている４基と合わせれば、６代にわたって隆盛を極めた豪族がいたことになる。
しかし、南川の氾濫で地中に埋もれてしまったのである。

交野・車塚古墳群

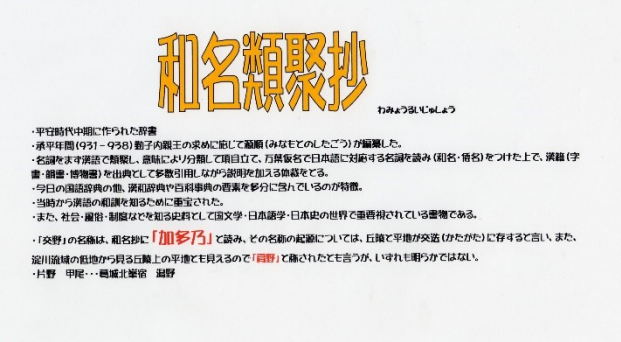
今井に集落があった時に、南川の左岸を開いて水田にしたことから付けられた地名と思われるが、他方、南川の南に開けた土地だから南野とも受け取れる。
また、巽山との関連から、今井の集落時代に開けたと解する方が妥当ではないだろうか。

寺・小字名

寺	今井・冷田・岡田・古宮ノ上・南野・巽山・大畑・西ノ山・出走り・丑墓・尾上高塚・笹ゴ谷・日教坊・上町・中町下町・浦町・垣内・中出垣内・下出垣内向垣内・上山田・中山田・有リカジ北山・中山・南山

「わがまちふるさとかたの地名をたずねて」より

◆追記・アルバム



和名類聚抄

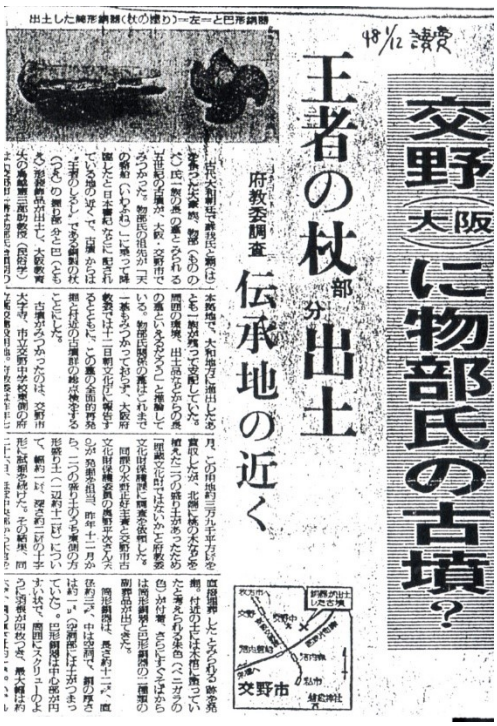
わみょうるいじゅしょう

・平安時代中期に作られた辞書
・承平年間(931－938)勤子内親王の求めに応じて源順(みなもとのしたごう)が編纂した。
・名詞をまず漢語で類聚し、意味により分類して項目立て、万葉仮名で日本語に対応する名詞を読み(和名・倍名)をつけた上で、漢籍(字書・韻書・博物書)を出典として多数引用しながら説明を加える体裁をとる。
・今日の国語辞典の他、漢和辞典や百科事典の要素を多分に含んでいるのが特徴。
・当時から漢語の和訓を知るために重宝された。
・また、社会・慣俗・制度などを知る史料として国文学・日本語学・日本史の世界で重要視されている書物である。

・「交野」の名称は、和名抄に「加多乃」と読み、その名称の起源については、丘陵で平地が交迭(かたがた)に存在すると言い、また、淀川流域の低地から見る丘陵上の平地でも見えるので「高野」と称されたとも言うが、いずれも明らかではない。
・片野　甲斐・・・長城北駅宿　潟野

加多乃、理解できますか?

出土:短甲埴輪



48/12 讀賣

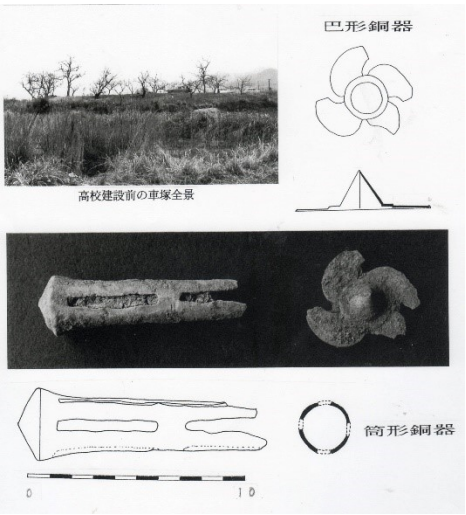
交野(大阪)に物部氏の古墳?

王者の杖部分出土

府教委調査 伝承地の近く

出土した巴形銅器(杖の柄)=左=と巴形銅器

上:寺塚穴古墳の玄室　下:奥壁



知っている人、初めて知る人も、みんなで討論!

次回 11/15